

平成18年度文部科学省大学改革推進事業
大学教育の国際化推進プログラム
(海外先進教育実践支援)

子どもスポーツ 指導プログラムの 国際化推進

— 実践的指導力のある教員養成システムの構築 —

報告書



奈良教育大学
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION

5

スポーツクラブ指導者養成

バルシューレの実技講習 (1. 3. 3. 3. を参照)

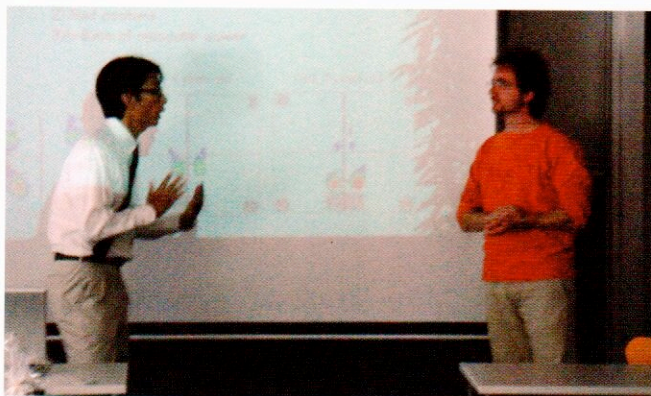


8

ハイデルベルク大学と奈良教育大学による バルシューレ・プロジェクトの ミニシンポジウム (2006.9.27-10.04)



ロート教授と木村教授



若吉教授、右は通訳の Gantzert 君 (スポーツ科学と日本学を専攻するハイデルベルク大学の学生)



高橋助教授



外山総務課係長



古谷会計課職員

9

平成 18 年度大学教育改革プログラム 合同フォーラム「ポスターセッション」 (2006.11.12 於：パシフィコ横浜)

取組番号 310

平成 18 年度大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実践支援)
子どもスポーツ指導プログラムの国際化推進
—実践的指導力のある教員養成システムの構築—

ハイデルベルク大学



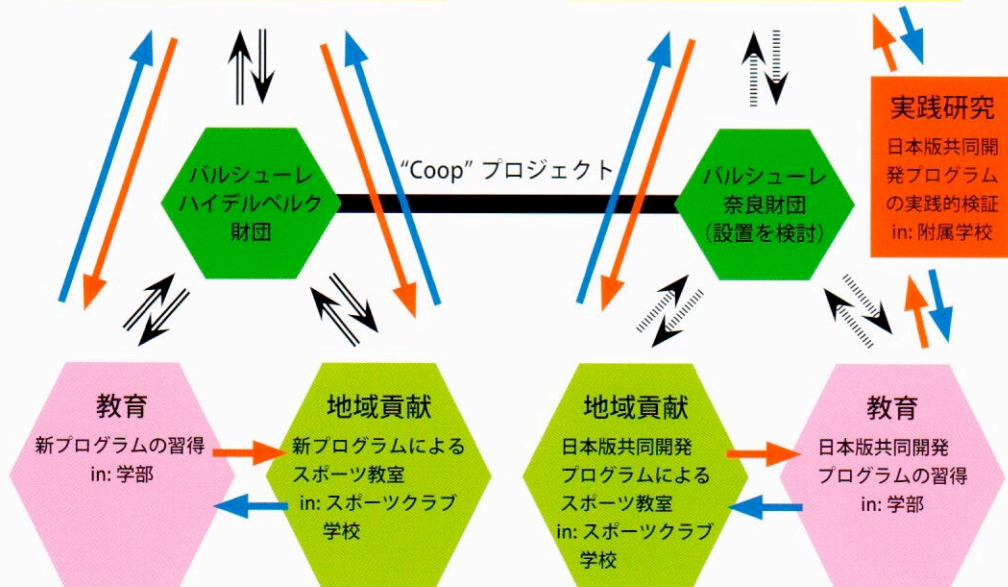
奈良教育大学



研究
新しい子どもスポーツプログラムの開発
in: スポーツ科学研究所

“Ball”
プロジェクト

研究
日本に合った
新しい子どもスポーツプログラムの共同開発
in: 保健体育講座

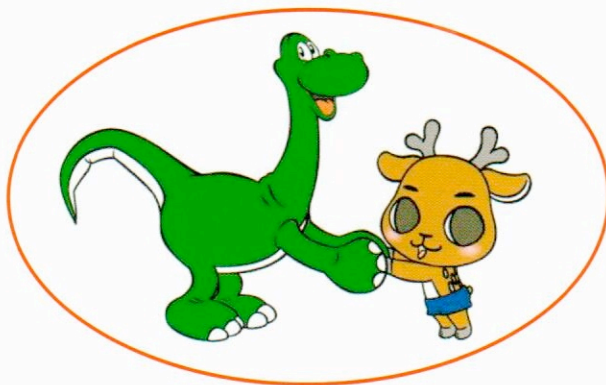


奈良教育大学国際化推進プロジェクトのポスター

12 バルシューレ・ジャパーンに向けて



←バルシューレ・ハイデルベルクのロゴ



「ハイデルベルクの恐竜くんの代わりに奈良の鹿くんを中央に入れて、独自のロゴを作ったら？」というロート教授の提案に基づいてデザインしたバルシューレ・ジャパーンのロゴ。このロゴはこれからどれだけ活躍するだろうか!?



目次

まえがき	1
------	---

平成 18 年度大学教育の国際化推進プログラム（海外先進教育実践支援） 子どもスポーツ指導プログラムの国際化推進 （実践的指導力のある教員養成システムの構築）とは	7
---	---

I. バルシューレ・ハイデルベルク (Ballschule Heidelberg) — 15

1. Ballschule Heidelberg —大学と地域のスポーツ連携事業のモデルとして	16
2. Ballschule のコンセプト	18
2.1. Ballschule 構想の背景にある現代の子どもの問題	18
2.2. Ballschule の目的・内容・方法	18
3. Ballschule の組織と運営	22
3.1. 大学と地域スポーツクラブの連携	22
3.1.1. Ballschule 推進部	22
3.1.2. 連携協定の締結	23
3.1.3. スポンサー	24
3.1.4. スポーツクラブにおける Ballschule の運営	24
3.2. 大学と小学校の連携	26
3.2.1. 当初の小学校の協力	26
3.2.2. 小学校との連携と Ballschule の運営	26
3.3. 指導の質を保証するためのシステム	28
3.3.1. Ballschule のクラス編成と指導者	28
3.3.2. 学生指導者の養成	29
3.3.3. スポーツクラブの指導者養成	32
3.4. 社団法人 Ballschule Heidelberg 財団の設立	32
4. Ballschule の発展	34
4.1. 量的拡大	34

4.1.1. 会員数の増加	34
4.1.2. 連携校及び連携クラブ数の増加	34
4.2. 質的发展 —新しいイベントやプロジェクトの展開—	35
4.2.1. タレント発掘イベント Dinotour の開催	36
4.2.2. 多動性障害児対象の Ballschule	41
4.2.3. 肥満児対象の Ballschule	41
4.2.4. Ballschule タレント発掘・育成プロジェクト	44
5. 関係者にとっての Ballschule の意味	46
5.1. 子どもと保護者にとって	46
5.2. 自治体にとって	51
5.3. 地域スポーツクラブと競技団体にとって	52
5.4. スポンサーにとって	53
5.5. 大学にとって	54
6. 大学による地域連携事業が備えるべき条件 — Ballschule Heidelberg から学ぶ—	57

II. 奈良教育大学におけるバルシューレの可能性 61

1. Ballschule プログラムによる教員養成システム構築の可能性	62
1.1. 専門科目「スポーツ指導方法論」及び 「体育原理」への Ballschule の取り込み	62
1.2. 専門科目「地域スポーツ実習」での Ballschule の活用	64
1.3. 実践的指導力のある教員養成システムの構築に向けて	65
2. 公開講座スポーツ教室における Ballschule のプログラム活用と今後の可能性	66
3. Ballschule 展開のための大学の組織・運営面における可能性	71
3.1. 全学的な立場から —大学の組織的対応—	71
3.2. 事務局（広報・地域連携担当）の立場から	75
3.3. 事務局（財務担当）の立場から	76
文献	79

2 Ballschule のコンセプト

2.1. Ballschule 構想の背景にある現代の子ども問題

「昔の子どもたちは外で元気よく遊んだものだ。それにひきかえ今の子どもたちは…」と嘆くのは日本の大人たちばかりではない。ドイツでも子どもたちの戸外での自由な遊びが急速に減少し、子どもたちをめぐる問題が大きく取り沙汰されるようになってきている (Schmidt, 1997)。例えば、昔の子どもたちなら広場や路上や空き地などで友達と遊んでいるうちに知らぬ間に多種多様な体力や運動能力それに社会性を獲得したものだが、今の子どもたちはそのような遊びを経ないで、いきなり地域スポーツクラブにやってくる。ところが地域スポーツクラブの方は相変わらず、サッカー、バレーボール、バスケットボール、陸上競技、体操競技…というようにスポーツ種目ごとに組織化されており、子どもたちは前提となるオールラウンドな能力を欠いたまま、専門分化したスポーツ種目の技術を教え込まれることになる。

Ballschule の提唱者である Roth はこのような状況を問題視して次のように述べている。「子どもは本来スペシャリストではなく、オールラウンダーである。したがって、大人の世界からコピーした偏りのある負荷を課すような、いわゆる早期専門化はマイナス効果を及ぼす場合が多い。このやり方は、調和的な発達を保証するものではなく、意欲も失わせる。さらに最高のパフォーマンスを生み出す年齢に達する前に登りつめてしまいバーンアウトにつながるケースも少なくない。ドイツではいま 17 歳のスポーツクラブ離れが進んでいることを真摯に受け止めなければならない。また一つのスポーツ種目に（あまりに）早く絞ってしまうと、——継続的・長期的にパフォーマンスを高めていくとしても——最終的に高いレベルに達せずに終わってしまうことが多い。」 (Kröger/ Roth, 1999, S.9)。

Heidelberg 大学スポーツ科学研究所はもともと Roth を中心としてボールゲームの分析・トレーニングに重点を置いて研究を進めてきており、その研究成果を実践に応用する意味からも、また上記のような現代の子どもの運動遊びの不足から生じる健康・発達問題の解決に寄与する意味からも、Ballschule が構想されることになったのである。

2.2. Ballschule の目的・内容・方法

Ballschule が広報パンフレット “Ballschule Heidelberg” に掲げている目的は次のとお

りである。

- ・子どもの精神面、情緒面、運動面のトータルな育成。
- ・ボールゲーム状況の多面的な体験と知覚。
- ・ボールゲーム種目に共通するボール操作能力（例えば、ボール感覚、ボール調整力）の獲得。
- ・「ボールゲーム集団」における社会的つながり。

要するに Ballschule は、サッカー、バレーボール、ハンドボール、バスケットボール、テニス、バドミントン等々のボールゲーム種目に専門分化した特殊な能力ではなく、ボールゲーム全体に共通する能力をさまざまなプレイ状況のなかで身につけさせながら、子どもの健全な発達を保障しようというものである。

昔の子どもたちは外で仲間と遊んでいるうちに知らぬ間にさまざまな能力を身につけたわけだが、そのような「自然な習得法」にできるだけ近い形でボールゲーム全体に共通する能力を子どもたちに習得させようとする指導法を Ballschule はとっており、内容も、既存のボールゲーム種目をただ単に易しくしたものではなく、それらに共通するプレイ状況を課題ごとにつくったゲームを中心としている。

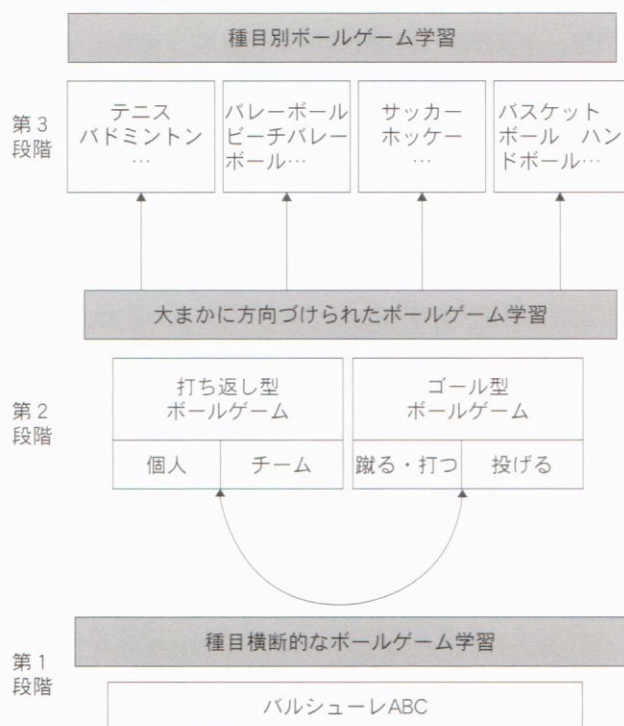


図1-2-1
バルシューレの段階的学習構造：ボールゲーム種目全体を包括する学習から、種目群に分かれた学習を経て、種目毎の専門的な学習へ

えている(図 I-3-1)。「バルシューレ ハイデルベルク」は、47 の地域スポーツクラブ、6 つの商業スポーツクラブと連携している。2006 年には新たに 9 つのスポーツクラブとの連携がなされている。2002 年の大幅な増加は、カプリゾンネがスポンサーになったことによるところが大きい。

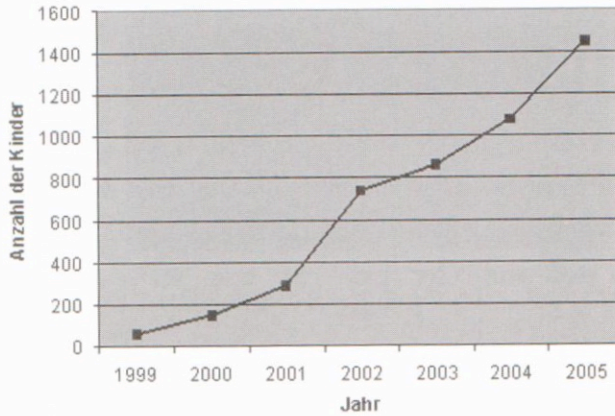


図 I-3-1 スポーツクラブにおけるバルシューレ参加者数

商業スポーツクラブでのバルシューレの受講料は、各クラブで設定しており、およそ年間 80 ~ 100 ユーロであり、大きな利益がある商業スポーツクラブからは、利益の一部が「バルシューレ ハイデルベルク」に入る仕組みになっている。

現在、ベルリン、エッセン、ハイデルベルク、ミュンヘンにバルシューレのセンターが置かれており、職員が駐在している。ライン/ルール(エッセン)のセンターではスポーツクラブでの実施が多いが(図 I-3-2)、ベルリンのセンターでは、学校での実施が多くなっている(図 I-3-3)。ミュンヘンセンターでは、310 人がバルシューレに参加し、ダイナツアー(後述)というイベントも開催している。その他、幼稚園との連携を

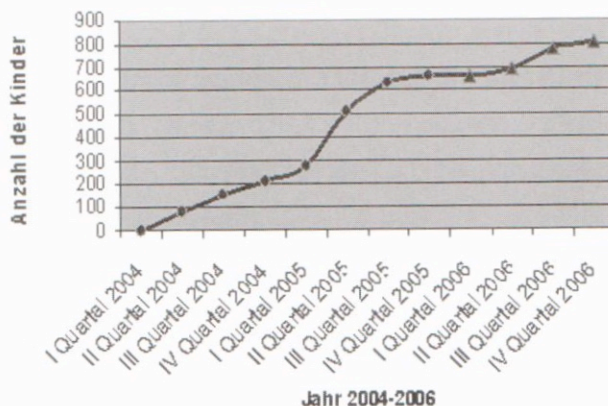


図 I-3-2 ライン/ルールのセンターにおけるバルシューレ参加者数

学業や社会性といった就職に結びつく面をも含めた支援であるとの理念の下、サッカー、アイスホッケー、ハンドボールのクラブで活躍できるタレント育成を行っている。氏の考え方が、Ballschule タレント発掘・育成プロジェクトにも反映していると言えるだろう。Lautenschläger氏は、バスケットボールのクラブからのサポートをしているが、スポーツだけでなく科学的研究や文化社会的な事業に対して資金を提供しており、ハイデルベルク大学名誉評議員の役職にもある。

(高橋 豪仁)



Wollen an einem Strang ziehen und den Kindern der Metropolregion ein unbeschwertes Sportspielen in der Ballschule Heidelberg ermöglichen, v.l.n.r.: Rolf Bechtold (Nachwuchskordinator der SG Kronau-Ostlingen), Markus Jochum (Trainer des USC Heidelberg), Prof. Dr. Jochen Träger (Kinderarzt und Prorektor der Universität Heidelberg), Mäzen Manfred Lautenschläger (MLP AG), Dr. Michael Schwarz (Universitätssprecher und Vorsitzender des USC Heidelberg), Oberbürgermeisterin Beate Weber, Mäzen Dietmar Hopp (SAP AG), Anton Nagl (Vorsitzender der Fußball-Förderzentren „Anpfiff ins Leben“), Heimit de Raaf (Jugendleiter der Adler Mannheim) und Prof. Dr. Klaus Roth (Gründer der Ballschule Heidelberg). Foto: val

写真 1-4-10

Ballschule タレント発掘・育成プロジェクト発足に際しての記者会見 (2006.6.21) : 中央の女性はハイデルベルク市長 Beate Weber 氏、右端は Klaus Roth 教授、スポンサーの Manfred Lautenschläger 氏、Dietmar Hopp 氏のほか、Ballschule と連携しているプロのスポーツクラブ関係者が記者会見に臨んでいる。